



問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。

- 1 新入生を部活動に勧誘する。
- 2 雑草が繁殖するのを防ぐ。
- 3 自宅の外壁を塗装する。
- 4 各地の観光名所を巡る。

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナと同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 鉄がサンカしてもろくなる。
- 1 事業のサイサンが合う。
  - 2 生糸作りのためにヨウサンを行う。
  - 3 理科の実験でエンサンを使う。
  - 4 周りからショウサンされる。
- b 競技の直前にセイシンを集中する。
- 1 新しいセイヒンの特徴を調べる。
  - 2 城の歴史にセイツウする。
  - 3 収支を改善してザイセイを立て直す。
  - 4 状況の変化をレイセイに判断する。
- c 社長にシユウニンする。
- 1 初めてキュウシユウに旅行する。
  - 2 連続の得点にカンシユウがどよめく。
  - 3 山にはバンシユウの気配が漂っている。
  - 4 民間企業にシユウシヨクする。

d 優勝への道のりはケワしい。

- 1 自転車のホケンに入る。
- 2 川のスイゲンを探る。
- 3 最新のケンキュウについて調べる。
- 4 食材をゲンセンして調理する。

(ウ) 次の各文の□にはすべて同じ漢字一字が入る。その漢字として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

新年の□負を述べる。  
鳥が卵を□く。

腹を□えて笑う。  
若者が大志を□く。

- 1 包
- 2 抱
- 3 持
- 4 置

(エ) 次の文中の□に入れる敬語表現として誤りのあるものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

お客様のご自宅に当店の者が□。

- 1 伺います
- 2 参上します
- 3 いらつしゃいます
- 4 参ります

(オ) 次の文章中の  に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

先祖伝来の高価な茶器も、子どもには古ぼけた道具にしが見えなかったようだ。まさに  だ  
と思った。

1 猫に小判  
2 猫に鱈節  
3 犬も歩けば棒に当たる  
4 犬の遠吠え

(カ) 次の文章は、ある古典文学作品について説明したものである。その古典文学作品として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

「春は明け方。」という内容で始まる平安時代に成立した随筆で、約三百段からなる。一条天皇の中宮(后)に仕えた女房によって書かれた。宮廷の日常生活を記録したものや自然や人間に対する感想などが描かれている。

1 おくのほそ道  
2 徒然草  
3 平家物語  
4 枕草子

(キ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

池田 はるみ

- 1 立ち合い直前に足をふんばって頬を紅潮させる力士の姿が、大地に根を張る満開の桜の木と重なって見えた感動を、「かな」という言葉で技巧的に表現している。
- 2 旅先で桜の開花を待ちわびる気持ちと、帰りの電車の発車時刻が気になって仕方がないという相反する思いを、相撲の制限時間に見立てて比喩的に表現している。
- 3 今にも桜の花が咲きそうな様子を、立ち合いの場面と結びつけ、力士が足をふんばり頬を紅潮させるさまと桜の花の色のイメージを重ねて軽妙に表現している。
- 4 頬を紅潮させたような満開の桜の花に見とれてしまい、思いもよらぬ時間がたっていたという驚きを、「いつばいである」という言葉で率直に表現している。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学五年生の「ぼく（学）」は、同じ学年の「雄成」「奈々」とともに「あぐり先生」「鎌足さん」の指導のもと、農業を体験する「あぐり☆サイエンスクラブ」で活動している。「美代さん」「耕三さん」「茂さん」もクラブの活動を手伝ってくれる。その日は、みんなで田植えを行っている。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(堀米ほりこめ 薫かおる「あぐり☆サイエンスクラブ..春」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 畔へ田と田の間の土を盛り上げて作った境。

手植てうちええ手てで苗を植える作業。

(ア) —線1「はい！」とあるが、そのように言ったときの「ぼくたち」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 この広い面積の田んぼを「あぐり先生」と「鎌足さん」のふたりだけで田植えするのは大変であり、苗を運ぶ作業だけは自分たちにもできる手伝いであると考えて取り組もうとしている。

2 「あぐり先生」と「鎌足さん」のふたりだけで田植えをしながら苗箱の片づけまですることは大変なので、苗箱を集めて洗うだけなら自分たちにもできそうだと思って動こうとしている。

3 田植えに没頭している「あぐり先生」と「鎌足さん」は、泥だらけになった苗箱をきれいにすることを忘れてしまっているため、自分たちの手によってきれいにしようと思っている。

4 苗箱を集めて洗うことは小学生の自分たちにとっても難しい作業だが、忙しそうに「あぐり先生」と「鎌足さん」のふたりを見ると、手伝わずにはいられないでいる。

(イ) —線2「じ、地獄に仏だあ……。」とあるが、そのように言ったときの「雄成」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 洗い終わった箱を重ねるより苗箱を集めるほうが簡単そうなので、仏様のように優しい三人に仕事の役割をかわってもらえるよう頼もうとした。

2 子どもにもできる簡単な仕事を黙々と続けるのはとても退屈なので、応援に駆けつけた三人が何か面白いことをしてくれそうだと期待した。

3 手植えの疲れが残ったまま単純作業を繰り返すのは想像以上につらかったので、手伝いに来てくれた三人が仏様のようにありがたく思われた。

4 子どもの力では地獄のようなつらい作業をおわらせることができないので、大人の三人に仕事を任せて自分たちは一刻も早く休もうとした。

(ウ) —線3「ぼくと雄成は、胸を張った。」とあるが、そのときの「ぼく」「雄成」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「美代さん」に田植え体験の感想を聞かれて、服が汚れるのも気にせず暗くなるまで作業に取り組んだ点は、「奈々」に負けていないことを自慢気に主張しようとしている。

2 「美代さん」に田植え体験の様子を聞かれて、ふざけて泥だらけになってしまったことを取り繕うために、虚勢を張って苗をじょうずに植えたことを主張しようとしている。

3 「奈々」に働いていないと言われたのを「美代さん」に誤解されないよう、自分たちのほうがより多くの苗を植えることができた大きな声で主張しようとしている。

4 「奈々」に格好悪い点を指摘されたのを打ち消すように、「美代さん」に自分たちも苗をそろえてじょうずに植えられたことを自信をもって主張しようとしている。

(エ) —線4「段取り八分さ。」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 仕事をうまくすすめるためには、事前の準備をしっかりとしておくことが大切であり、それができれば仕事は八割がたおわっているようなものだということ。
- 2 仕事をうまくすすめるためには、後片付けを早めに行うことが重要であり、一連の作業を体で覚えることでほぼ八割の仕事はこなせるようになるということ。

3 仕事をうまくすすめるためには、タイミングを失わないことが大事であり、適切な時期を見極めることで作物のうちのほぼ八割は育つようになるということ。

4 仕事をうまくすすめるためには、作業を段階的に行うことが必要であり、手順を八割がた身につけられれば最低限の技量に達するようになるということ。

(オ) —線5「がんばれ、苗！」とあるが、ここでの「ぼくたち」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 田んぼの中で重い土を押しあげて芽ぶいてきた苗であるから、これからどんな過酷な状況に見舞われたとしても、たくましく伸び続けていくことを信じるように読む。

2 自分たちの子どものように育ててきた苗が、あたたかいハウスの中から寒い外の世界に出されても、必死に土の中に根を下ろそうとしている様子を励ますように読む。

3 「ぼく」も「奈々」も「雄成」も同じ気持ちで大切に育ててきた苗が、寒い外の世界に出されて頼りなく風でひらひらと葉先を揺らしている状況を心配するように読む。

4 見た目のか細さとは異なり想像している以上にたくましい苗であるから、自分たちが何も世話をしなくてもこれから立派に育っていくだろうと安心したように読む。

(カ) —線6「ぼくたちはいつせいに息を飲んだ。」とあるが、その理由を説明した次の文中の

Ⅱ に入れる語句として最も適するものを、Ⅰ については七字で、Ⅱ については

五字で▼から▲までの本文中からそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

田んぼの水が鏡になってうつした、まばゆく、Ⅰ を見て、田んぼの神様から Ⅱ をもらったような気がしたから。

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 小学生の「ぼく」が、体験を通して農業の難しさを痛感し、「雄成」や「奈々」と相談しながら知恵を絞って作業をすすめるさまを、農業の専門知識を交えつつ効果的に描いている。

2 小学生の「ぼく」が、体験を通して農業に対する理解を深め、将来は農業にかかわっていかうと決意するまでのさまを、「雄成」や「奈々」との会話を中心にみずみずしく描いている。

3 小学生の「ぼく」が、「雄成」や「奈々」とともに農業の体験を通して様々な課題を克服し、「あくり先生」たちから認められる様子を、豊かな自然を背景に情熱的に描いている。

4 小学生の「ぼく」が、「雄成」や「奈々」とともに農業の体験を通して様々なことを学び、作業の大変さや充実感を味わう様子を、「ぼく」の視点から生き生きと描いている。



問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(光嶋こうしま 裕介ゆうすけ「建築という対話」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 叡智えいち||すぐれて深い知恵。

ヒエラルキー||上下関係。

対峙たいし||向き合うこと。

アウトプット||出力。ここでは仕事によって生み出されるもの。

サイクル||周期。

アイデンティティ||他と区別する自分らしさ。

(ア) —線1「この五つの仕事は、すべて僕の中で等価に存在しています。」とあるが、それを説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 建物を設計するためには、自分の中で伝えたいことがなかなか見つからなくても、対話を通して相手に表現するための材料を探さなければならぬということ。

2 建物好きのアーティストと思われなければならないためには、建築の設計が核となる職業だと思っても、創造的な仕事は他にもあると言わなければならないということ。

3 建築家として成功するためには、一時的に建築家の肩書きを失ったとしても、建築とは違う分野に進出して技術を磨く必要があると受け止めているということ。

4 建築家として無形物から有形物を生み出すためには、最終形態が違ったとしても、どの仕事も自分にとって同じように必要であると受け止めているということ。

(イ) —線2「建築家の描いている絵ということが、僕にとってはとても大事なことです。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「僕」にとって、絵の仕事は建物を設計することを遠くから補完する存在であるのに対し、建築家という職業は人生をかけるに値するものであるから。

2 「僕」にとって、好きなことを仕事にすることと自分の仕事を好きになることは同じ意味であり、絵の仕事は建築家以上に大きな位置を占めているから。

3 「僕」にとって、建物を設計することと絵を描くことは等価に存在しているが、建築家を名乗る以上は絵ばかり描くことをやましく感じられるから。

4 「僕」にとって、建築家という肩書きは絵を売るための特別なものであり、文筆家や大学の教員として知名度を上げるためにも必要なものであるから。

(ウ) —線3「好きなことを仕事にできる人は幸せだ。」というようなことを言う人がいますが、僕は逆だと思っています。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自分の好きな仕事ばかりを求めるのではなく、目の前の与えられた仕事を広い視野で正確に理解し、肯定的な立場で努力を重ねることによって、その仕事を好きになるから。

2 自分が興味を持っていることだけを仕事にするのではなく、人が敬遠するような大変な仕事を引き受けることで、周りの人々の負担を減らし皆を幸せにすることができるから。

3 自分のやりたい仕事にこだわるのではなく、他者が憧れる仕事の中から一生続けられそうなものを選択し、前向きに臨むことによって、本当の幸せを手に入れることができるから。

4 自分が快適に感じるような新たな仕事を求めるのではなく、与えられた仕事を一定の期間だけ我慢して受け入れることで、次回は気に入った仕事が与えられるようになるから。

(エ) — 線4「ちっほけなこだわりを捨てること」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分の壁を乗り越えるために、他者と協力して一つの仕事に没頭し続けていくこと。
- 2 自分の資質や特性をはじめから決めつけずに、なにごとにも挑戦する姿勢をもつこと。
- 3 自分の行動の指針や信条は持たずに、これまでの自分を簡単に変えていくこと。
- 4 自分の殻を守るために、過去に積み重ねてきた経験や価値観を大切にすること。

(オ) — 線5「他者から出発するデザイン」とあるが、それを説明した次の文中の□Ⅰ・□Ⅱに入れる語句として最も適するものを、□Ⅰについては四字で、□Ⅱについては二字で▼から▲までの本文中からそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

建築家として、なるべく□Ⅰから発想することによって、他者への想像力を豊かにし、魅力ある□Ⅱを可能にするようなデザイン。

(カ) 本文について、中学生のAさん、Bさん、Cさんの三人がグループで話し合いをした。次の文章は、そのときの一部である。話し合いの中の□Ⅰに入れるものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

Aさん 筆者は他者とのかわりを大切にしているようですね。

Bさん そうですね。また、筆者は「日頃自分が接している他人こそ、自分の写し鏡だと思う」と述べていますが、これはどういう意味でしょうか。

Cさん 本文の「目の前の他者の中に自分をみつけ、自分の中の他者と向き合い」というところと関係があると思います。これは、「他者への想像力」が大切ということでしょう。

Aさん 建築家として、つねに他者とかかわりながら仕事を進めなければならない筆者の言葉ですから、説得力がありますね。

Bさん 世の中にはいろいろな考えの人もあるから、自分とは違う価値観の人も受け入れなければならないのではないでしょうか。これはとても大変なことではないでしょうか。

Cさん 難しいことではないですよ。要は「自分だったらこうしてもらいたい。」という、他者の立場になって、物事を考える想像力をもつということです。これは、いろいろな価値観の人とつきあって仕事を進めていく上で、自分を拡張する想像力をもつことでもあります。

Aさん なるほど、だからこそ、筆者も□Ⅰが大切であり、その中で全力で物事に向き合うことを主張しているのですね。

- 1 多くの国の人たちとの異文化交流の中で自分を広げること
- 2 多くの人たちとの会話の中で自分の考えを明確にすること
- 3 さまざまな人たちとの出会いの中で変わり続けること
- 4 さまざまな人たちと衝突する中でたくましく生きること

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) 観世大夫、道中にて、隣家に話をうたふを聞きて、「かれをやめさせてみすべし。」とて、一曲話をひ出だ

しければ、しばしのうちに、かの話はやみぬ。また、とある宿にてうたふ者ありけるに、前夜のことを側

より言ひ出だして、「前のごとくにあれかし。」と望みければ、「これは叶ひがたし。いかにとなれば、さ

きの話はよほど巧みなる話なりしゆゑ、我が声を発すると聞きとめて、この方を細かに聞き、かつ自分を

恥ぢてやめつるなり。この夜の話は他の善悪を聞き知るほどのわざにあらざれば、何ほどこの方にて話ひ

ても、通じざればすべきやうなし。」と答へしとぞ。

すべてのわざ、かくのごとし。ただにこれのみにあらず、打てども響かざる、いと多し。

(「窓のすさみ」から。)

(注) 観世大夫 能楽を演ずる観世流の家元。

(ア) ~~~線部の主語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 観世大夫
- 2 隣家に謡をうたふ者
- 3 とある宿にてうたふ者
- 4 前夜のことを側より言ひ出だしたる者

(イ) ——線1「かれをやめさせてみすべし。」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 隣家の人の謡曲の優れている点を褒めてみよう。
- 2 隣家で謡曲を習うことを思いとどまらせてみせよう。
- 3 隣家の人に謡曲を控えめにうたうように働きかけてみよう。
- 4 隣家で謡曲をうたうのをやめさせてみせよう。

(ウ) ——線2「かの謡はやみぬ。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「観世大夫」の謡曲が聞くに堪えないほどひどく、己の謡をやめることで抗議しようとしたから。
- 2 「観世大夫」の謡曲が前触れもなく始まり、隣家でうたう人がうまく合わせられなくなったから。
- 3 「観世大夫」の謡曲があまりに上手であり、隣家でうたう人が己の技の未熟さを恥じ入ったから。
- 4 「観世大夫」の謡曲がとても素晴らしく、己もその技を身につけたいと聞きほれてしまったから。

(エ) ——線3「通じざればすきやうなし。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「観世大夫」が謡曲を通してどんなに真の芸術を教えようとしても、今夜うたっている人には耳を傾けるだけの誠意がないので、手立てがないということ。
- 2 「観世大夫」がどんなに謡曲をうたったとしても、今夜うたっている人には謡曲の善し悪しを聞き分けることができないので、どうしようもないということ。
- 3 「観世大夫」がどんなに謡曲の技術を披露したとしても、流派が異なれば謡曲の善し悪しも変わってくるため、受け入れられることはないということ。
- 4 「観世大夫」がどんなに舞の魅力を語ったとしても、受け継がれた伝統と格式の高さを知らなければその価値が伝わらないため、無駄であるということ。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「観世大夫」がいることを知らずに謡曲をうたう者に、こっそりと教えてやめさせた行動は、周りの人々の情けを表している。
- 2 「とある宿にてうたふ者」の技量が高く、そのままうたわせておいたのが、「観世大夫」の能楽への理解の深さを示している。
- 3 芸術の世界だけではなく、こちらが何かを伝えようとしても相手に伝わらないということは、よくあることである。
- 4 能楽においては自分自身で練習を重ねるだけでなく、一流と呼ばれる人の技に耳を傾け、教えを請うのが上達の近道である。

(問題は、これで終わりです。)